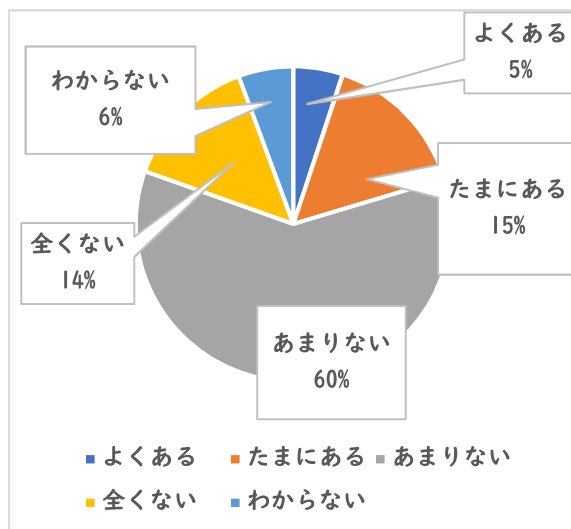


3. 職場・学校

①ご自身の職場や学校において、性別による不平等を感じることはありますか。



	人	%
よくある	19	5%
たまにある	57	15%
あまりない	224	60%
全くない	52	14%
わからない	21	6%
計	373	100%

②それはどんな時ですか。

【職務内容】

- ・言葉では、ないですが。過去に会社自体が女性従業員を雇わないということがありました。あと、育休、産休にはいると復帰後に降格がありました。
- ・男性の方がキャリアアップしやすいと感じる。女性の管理職が少ない。
- ・育休明けは、慣らしがないまま即通常業務に当たらなければならないし、できるとされていること。
- ・男性は出張や昇進があり、給料も高くなっていく。
- ・女性の方が軽作業、低賃金。男性の方が重労働で高給なので、見合っていると思います
- ・男性は現場、女性は事務仕事
- ・力仕事及び大きい車の運転は男性みたいな動きがある
- ・同じ仕事！時間！男性の給料は女性より高い！また、学歴は高いが仕事の能率はまだ低い学歴を持っている人の仕事の能率が高いなどの不平等な待遇の問題もある
- ・同じ仕事、あるいは、こちらの方が忙しいのに、男性総合職の方が、ずっと高い給与をもらっている
- ・女性社会で、ステレオタイプな男性像を当てはめられ、力仕事などは強制的にさせられる。
- ・役職等
- ・仕事内容において
男性には高額な引き合い案件を担当させて、女性にはその他雑務のような仕事をさせる。出張も男性しか行かない。
- ・過保護な感じになる、現場仕事より、事務仕事へと、移行している感じ

【職場環境】

- ・母親は子どもの病気などで仕事を休みやすいが、父親は休みにくい。
- ・女性の労働時間の短さ。
- ・新しい仕事は男性がさせられることが多い。

【職場や周りの人の価値観・対応】

- ・特に高齢の男性には女だからと言われる
- ・お茶当番を女性だけで回している。
- ・女性の方が細やかな気を使えるという、耳障りの良い言葉で、トイレ掃除は女性だけの仕事になっている。
- ・お茶出しを頼まれるのはいつも女性
- ・女性が雑務を行うことが多い。
- ・トイレ掃除が女性だけに課せられている
- ・女性らしい気遣いを要求されるとき
- ・上司の言葉つかい
- ・制服、女は必ずスカート。身体を冷やしてはいけないのにスカートの強制。頭を取るのは必ず男の人
- ・分は女性で女性が多い職場なので、蛍光灯が切れたときに数少ない男性職員が交換をやってくれて、申し訳ないと思う。
- ・相手が女性だとクレームを言われやすい。
- ・女性だけが朝早く来て掃除をしている。しかも時間外に掃除のために早く来ている。それっておかしくない？なんで女性だけが職場の掃除を無給でしないといけない

【その他】

- ・配偶者が休まない（休めない）
- ・顧客の対応
- ・子供が病気したときに誰がみるか。
- ・スキルアップできない
- ・駐車場の距離や労働時間

③どのような変化があれば、過ごしやすい（働きやすい）環境になると思いますか

【職場環境】

- ・男女差別がなくなるとより、働きやすくなると思います。
- ・男女関係なく得意不得意があるため個人の特性に目を向けるような変化
- ・有給休暇の日数を増やしてほしい。
- ・子どもが急に熱を出して、仕事を休むことが多く、その他にも保育園の行事などで休みを取得しなければならず、有休が足りない。どの職場、あるいは学校（子どもたち）にも家族で過ごす時間として休暇を与えることで心に余裕が生まれる。

- ・有給休暇の日数を増やしてほしい。
- ・子どもが急に熱を出して、仕事を休むことが多く、その他にも保育園の行事などで休みを取得しなければならず、有休が足りない。
- ・どの職場、あるいは学校（子どもたち）にも家族で過ごす時間として休暇を与えることで心に余裕がうまれる。育休明けに慣らし勤務があったらいいと思う。
- ・長に女性を据える
- ・男性の意識改革。
- ・父親も育児、介護で休みを取りやすい環境づくり。
- ・勤務先の全従業員の労働時間の削減
- ・女性も給料を上げて、出張・昇進させてくれたら、モチベーションが上がる。
- ・子供が小さい時は、急な病院や送迎を男性側も出来る様に、男性の時短勤務や看護休暇の義務付け。
- ・たとえ遅くなろうと大きさ関係なくみんなしてやるべき
- ・掃除中も賃金を発生させるべき！嫌なら男性もみんなやる！
- ・差別をなくす。使えない女性は違う課に異動させるか出向させる
- ・女性差別などが訴えられてはいるが、女性社会の中の男性としては同じ構図が当てはまる。所詮同じではあるが、女性の方がルールにはルーズで人間関係で物事を考えるので上手くないことが多い。
- ・各人の評価と能力を平等に扱う
- ・気軽に休みやすい環境
- ・社会全体の価値観、固定観念の一掃。
- ・上司自らお茶出しを買って出る
- ・男女平等、男性の育休率取得率が低いのが問題
- ・誰もが雑務を行うようになる。
- ・思いやり、気配り
- ・時短勤務は役職なくなり、資格手当減額、評価されにくい、サービス残業
- ・男性にも職場内の役割を持たせてほしい
- ・家庭の状況も考慮した残業時間や、休日出勤の回数にして欲しい。
- ・女性管理職が増える。男女平等だと労働組合で勉強会をする。学校の授業で、男女差別（男尊女卑）の歴史や現代の実例を学ぶ。
- ・女の人にも下っ端ばかりでなく頭になれる仕事をさせてくれること、スカート、ズボンの自由
- ・適材適所はいいと思うが、女性の負担ばかりが大きいように感じるのは納得がいかないの
で、その分、男性はこんなことを頑張ってくれている、というようなことがわかったらいいと思う。
- ・子どもがいる父親も母親も、同じ環境で働けたら良い

- ・女性の立場を向上させなければ、と言われる方が多いが、男性視点の意見も聞いてみたい。
個人的には、現在男女で分けられている業務などをすべて平等に割り当てるのは難しいと思うが、育休取得する男性も増えてきていたり、男女参画の動きもある。ただ、代替要員や引継、フォローに回る側の負担増などの懸念もある。
- ・総合職と、女性が多いそれ以外の職種との給与格差を縮小

④その変化を生み出すためには、何が必要だと思いますか

【職場環境】

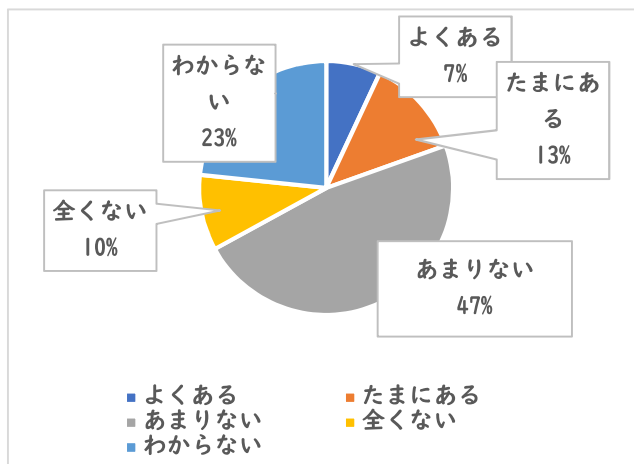
- ・会社、社長の考え方を変える。それを会社全体に伝える。
- ・育休明けの人たちへの理解
- ・意識改革
- ・子育て、介護は女の人がするものという価値観を捨てること。
- ・企業の経営層の意識改革、及び賃上げ（時間外労働の削減分）
- ・私は...という概念が根本的にダメ
- ・上司が変わること！まず掃除は位の低い人がやるという考えをなくして全員で行う！
- ・差別を無くす
- ・辞めていくことを想定して、採用人数を増やす
- ・やりたいようにまずはやらせて欲しい
- ・まずはお互いに信頼が必要！一人一人にチャンスの空間を作る
- ・子育てしているはずの 30、40 代男性が、職場の子育て中の女性に対し理解があってもよいと思う。
- ・職場での働きやすさは子育て環境や家庭の理解等、職場環境のみではない。
- ・プロパーではなく外部からの上司
- ・一人ひとりの意識の改革。現状把握、見直し、習慣づけ。
- ・女性だけでなく、男性もという意識が必要かなあとと思います。
- ・昔はこうだったという古い考え方を変える。残業や休日出勤をすることを前提とした仕事の進め方を変える。
- ・冬はズボンの強制。途中で自由にどちらでもいい時期を作る
- ・経営者の意識の変化。
- ・全ての職場に保育園や病院や病児保育がついていて、いつでも両親どちらも、子連れで仕事に行けること
- ・まずは家庭において、性差による不平等を解消していかないといけないと思う。
家庭の状況が個人の働き方や考え方に多大な影響を与えるので、固定観念やあるべき論にとらわれず、各人の希望を尊重できる環境を整える努力が必要。
- ・会社の上の認識を変えないと無理

【自治体による発信】

- ・会社の人事、業務改革。国からの男性時短勤務と看護休暇義務化の制定
- ・回りの理解と法律などの改正
- ・市役所がもっと頑張るべき。若者の意見をもっと取り入れるべき
- ・講演会。

4. 地域

①地域の活動（行事や会合等）において、性別による不平等を感じることはありますか。



	人	%
よくある	26	7%
たまにある	47	13%
あまりない	177	47%
全くない	36	10%
わからない	87	23%
計	373	100%

②それはどんな時ですか。

【性別による役割分担】

- ・バザーなど女性にまわってくる。（女性部で）
- ・父親が忙しいので、母親がやらざるを得ないこともある。
- ・地域の意見としてお伝えやお願いをしても、女性（女性で地位がないという）だという事で対応を変えられたり、取り合って頂けない経験をした。
- ・男はメインのしごとで女性は、トイレ掃除や茶碗洗いなど
- ・男は吞んで、女はあくせく動いている時。ただ、草刈りや力仕事、祭りなど、男に負担が入っているところもあるので、一概に女ばかりが、とは思わない。
- ・婦人会
- ・男はこのイベント参加など、くだらない区切りが多い。
- ・公民館の掃除は、ほぼ女性が行なっている。
- ・若い人が少ないので役割がすぐ回ってくる
- ・〇〇の祭の参加者は男性と決まっているなど、昔からの風習のものについては傾向が強い。
- ・婦人会の存在。
- ・昔からの風習なのかもしれませんが、男の子しか参加できない行事というのが多すぎる。特に祭

事。男の子だけがやるより女の子も一緒にやった方がもっと良くなるものもいっぱいあると思う。昔の子供達がたくさんいた時代とは違い、この少子化に少ない子供たちに負担かけすぎの傾向に感じる。

- ・不満を持ってるかは別として、行事ごとに参加するのが基本男。
- ・男がいる場合だけ祭りへの参加が必須となり、欠席の場合罰金がある
- ・参加必須の活動に参加しない人（できない人）がいるため、参加者に負担がよる
- ・殆どの会合は男性が出て、女性が出る事が無く、男性側の負担が大きい。
- ・町内会の食べ物の世話が女性部担当
- ・獅子舞は男の人が裁許、獅子の中に入る人も男、獅子取りも男の子である。女性が、地域のことに携わる機会はあまりないように感じる。地域の役職も世帯主にあたるので、自然と男性ばかりで集まって総会が開かれている。しかし、婦人会を復活させることは望んでいない。
- ・地域の町内会などは、女性は性別を理由に負担のかかる主要な役員をやらない。少ない世帯しかないのに、さらに特定の世帯に負担がかかる。偉そうに男女共同参画社会を目指すとか、男女平等を主張するならば、女性の意識改革が必要。
- ・祭りは男の人が中心。集まりがある、飲み会がある、お金がかかる。
- ・地域の祭りで男性、男の子が基本、獅子舞に出ている。
- ・地域の祭りや集まりが多いので子育て中の身としてはとても大変です。祭りに出る若い男性は少なくなっているのに内容は同じという。女性や男性も年齢に関係なく参加しないと難しいと思います。婦人会といった括りも今の時代にそぐわないと思います。町内会だけで良いのでは？
- ・掃除は婦人部の仕事という風潮。
- ・PTA など、保護者の集まりは母親が出ることが多い。父親の役員も増えることで、男性も参加するものだという意識が広まればいい。
- ・ある一定の年齢の世代の方々の男性陣は飲み始め、女性陣がその世話をしている
- ・男性しか意見を求められない。
- ・児童クラブの会長は女性だと決められていた。父子家庭もあるのにおかしい。
- ・地域の決め事など、なぜか、男性が、家長であり、男性が出席するものだという決まりになっている。夫がいけない時は、なぜか、妻が行く際にまで、委任状が必要になる。南砺市荒木の話。どんだけ古いのか。ありえない。発言も女性がしても、年寄りが多い地域、なんと自然体としてそうだが、感覚が古くて、女が何言うとりんや？笑笑という、雰囲気。
- ・昔ながらの考えの人が多いため、懇親会では男性はひたすら飲んで食べて、女性は食事の準備をし、台所から出ない。座って一緒に飲み食いすると非常識という目で見られる。
- ・会合が平日の夜 7:00 にあるとき
- ・祭りなどで男女の役割の違いは感じる。
- ・地区の活動の発言（年配の方々）

- ・不平等という訳では無いですが、役員・実行委員・当日の出展者について、男性が圧倒的多数に感じる。
- ・酒沸かし、酒つぎなど、いまだに女がホステス扱い、または召し使いのような扱いをされており、それが年寄りからすると普通だと思われる。
- ・議員や地区の役員等で、女性の数が増える。
- ・男性、女性で席が分けられ、出されるオードブルなどが全く違う。さらに、地域の年輩の方から、「次は男の子を産まんなん」などと言われる。
- ・地域のイベント時において、女性は完全に宴会の世話方であること(エプロン必須)
男性陣は女性が準備する食事を食べ、酒を飲むのみ。地域の整備(えざらい、寺の雪囲いなど)はほとんど男性が担っているので、女性と男性で役割分担かな…とは思いますが、それにしても女性が使用人みたいになってるのはとても違和感があります。それから、獅子舞において、女の子の参加が許されていないこと。
- ・地域の集まりは60・70代の男性がほとんど。時代に合う合わない関係なく慣習・形式を継続していくことを疑わないので、明らかに不要と思われることも変えようとしません。よい方向に変わっていくには女性(性は人の数だけあると思っていますが、ここでは便宜上)の意見を同じだけ反映すること、子供たちのことを考えることが必要ですが、そういった意見を聞くということをしたがらない男性が中心になっている。

【その他】

- ・青年団の活動

③どのような変化があれば、地域が活性化されると思いますか

【意識改革】

- ・子育て世帯が行事の準備、参加など負担が大きいため、回数を減らしてもらえるとありがたい。
- ・地域の意見を伝えやすい橋が必要だと思います。
- ・自分が使ったものは自分できれいにする
- ・子供が増える。住民が増える。地域のみだけでなく、広くいろんな人が参加できるイベントの開催。
- ・老人だけが集まっている。若い人を地域イベントにいかに参加してもらうか考えた方がよい。
- ・地域の行事を減らす
- ・家族形態が多様化しているので婦人会の存在があまり機能しなくなっている。ただ世帯の代表の集まりがあればよい。
- ・子供が参加するイベントや祭事では男女関係なく、参加できる様にしてほしい。
- ・若い世代、子育て世代が増える
- ・女性も参加したい人は参加して行く。

- ・役員の押し付け合いをしているうちは活性化はありえない。個人の利益しか考えていない。
- ・役員をしている人に対しても感謝の心がないのも問題である。市役所も地域の要望に応えることが出来ていない。個人的には町内会を通して冬の市道の除雪を要望してもしてくれず、早朝 5 時から 1 時間の除雪を余儀なくされ、南砺市に住みたくないと思うことがある。
- ・祭りの伝統を守りたい気持ちもわかるが、時代は変化している。若者もついてこない。年配者の方がやりたい気持ちが強い。今のやり方では、若者は参加せず、伝統も続かない。そこを理解して、若者も参加したいと思える方向性へ。
- ・女性や女の子も地域の祭りに参加出来るようにする。
- ・地域の活動を強制しないでほしい。生活の負担になってまで活性化しなくて良い。
- ・男女関係なく、意見が出しやすい雰囲気作りができればいいと思う。
- ・女性、若者、移住者が意見しやすい環境づくり。その方々の意見も聞き入れて、双方が協力しあえるようにする。
- ・何を質問していいかわからない、若い人たちに対して「若い者から質問すべき」と、上から目線の年配者が意識をかえること。
- ・そのような行事を一切無くしてほしい。
- ・老若男女子供も関わる
- ・若い女性が積極的にまちづくりに参画すること。
- ・若者が参加しやすい状況をつくる
- ・楽しむ気持ちをみんながもつこと。
- ・女性が家のことをするという先入観の改革。会合等、子育て家庭も出やすい環境作り
- ・イベントや会議ばかりやらないで欲しい。日頃の交流をメインにして欲しい。
- ・年寄りが多すぎる。若い世帯を呼び込まない限り無理。年寄りに今更認識変えろなんて言っても、無理だから、女性差別はなくなる、そして、そんな、女性差別の古い地域には、若い世帯は引っ越してきたがらない。解決は極めて難しい。

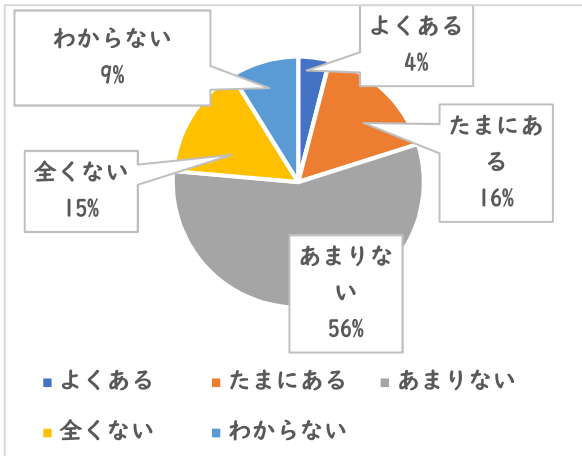
④その変化を生み出すためには、何が必要だと思いますか

- ・地域で子育てが一段落した方や定年を迎えられた方に協力していただく。
- ・昔からある風習にこだわらず、柔軟に物事を考え、取り組む姿勢。
- ・上に立つ班長や団長などの人が自ら行動する
- ・まずは、知ってもらうこと。
- ・頭の固い高齢の人がいなくなっていくこと。
- ・青年会や婦人会をなくす
- ・町内会長さんとか役員に女性を半数以上入れる。
- ・子育てしやすい環境を整える

- ・子育てしやすい環境を整える。南砺市には雨の日に子供を遊ばせられる施設がない
- ・会合＝男性と言う古臭い考えを改められないなら、女性だけの会合を開く。
- ・昔ながらの日本の地域共同の考え方が必要。個人を優先しすぎの社会を修正すべきです。
- ・昔の考えにこだわらず、新しい意見を聞く耳をもって、いろんな考えを出し合い、認め合える社会が必要だとおもう。
- ・昔から地域に住む人の考えを広い視野にしてみよう。（若者や移住者、女性がいなければ出来ないことも多いことを知る）
- ・怖いと思うのが、上の年代の女性たちは上記のような文化がとても当たり前だと思っていること。若い世代の女性がそれに異を唱えようと、たしなめられたり。でも、どうしてそれを当たり前で捉えられるのか、しっかり聞いたことはないの、まずはお互いの思いを聞き合うことから始めなくちゃいけないだろうなと思います。
- ・若い世代が入って活性化しないと、地域が廃れていくという危機感。
- ・家庭内での家事分担、意識の変化
- ・男性の育児能力の向上。
- ・地域での若い女性のコミュニティの造成。（特に結婚して他地域から来られた方は、なかなか地域に入ることが難しいのではないかと感じます。）
- ・時代の共存
- ・楽しむ気持ちをみんなが持ち、まずやってみること。
- ・他の地域などの前例
- ・地域の役員の年齢を、住んでいる人の中央値にする。
- ・古い考えの年寄りの割合より、若い世帯を増やせば、男尊女卑の考えも薄まる。
若い世帯を増やすには、明石市を見習って、既存利権と決別して抜本的な子育て世帯支援をした方がいい。また、若い世帯が働けるような、企業を積極的に誘致すべき。一流の田舎って、いや、景色いいとか、分かるけど、働くところとなれば、子育て支援も、他と変わらないでは、移住したい、または、住み続けたいとは思わない。田舎の良さ、そこだけで、生きていけない。それで移住して来る人は、限られている。子育て世帯への他市を超越する支援と、企業誘致して、働ける場所を増やす。これがないと、若い世帯は移住してこないし、今いる世帯も、他に移住してしまう。カビが生えた男尊女卑の考えの年寄りばかりが増えてく一方だ。そんなところに、若い世帯は誰も住みたくない。若い世代がいなければ、南砺市も消滅する。

5. 平等感

①ご自身の性別に関して、損をしたと感じることはありますか



	人	%
よくある	15	4%
たまにある	60	16%
あまりない	210	56%
全くない	55	15%
わからない	33	9%
計	373	100%

②それはどんな時ですか

【職場環境の違い】

- ・一度、会社の面接で女だからといって、落とされた
- ・仕事があっても子どもが体調を崩すと母親がやすむ
- ・仕事の時間が少ない
- ・給料が低いこと。
- ・男性社員と同じ立場業務内容であっても、男性女性では最初から給与がちがう
- ・仕事と給料面
- ・男性に比べると給料低いとか子供の関係でフルタイムで働けないとか、面接に行ったら子供のことや家族のことについて聞かれて落とされるとか色々あります。
- ・男性社会
- ・力が男性ほどない時。でも、女だから仕方ないと思えるし、男性ほど鍛えたいと思わなかった。
- ・働きにくい、給料が低い
- ・生涯得られる金銭差

【性別による役割分担】

- ・女だからという理由で、男女どちらでも出来るようなことを押し付けられる。
- ・女だけ色々な責任を問われがち。
- ・正社員で仕事をしていたが結婚のためやめた
- ・給料が男性に比べ低いとか、子どもをみるためにパートで働かないといけないのは大体女性の方とか。
- ・女だから仕事を教えてもらえない
- ・子育て、家事、仕事を両立することが女性は難しいから。
- ・子育てにおける母親の負担。

- ・女性の労働時間の短さ
- ・女性はお金がかかる。
- ・男女平等とは言いながらも、女性の方が家事・育児負担が多いと感じる
- ・育児家事仕事の負担感が大きい。
- ・出産また育児。我が子は大事だし、今更子どもが居ない生活も考えられないし、そんなふうに思いたくないのですが、心のどこかで…何にも囚われること(子どもの病気で休みがちになる)なくもっとたくさん働けたらうし、ある程度の地位は得られたのかなと考えることがあります。もちろん、子どもの成長したのちにまたしっかり社会復帰できれば叶うのですが…どうしたって子どもの小さいうちは自分時間が持てずに過ごすしかなくてしんどくなるときがあります。仕事より子どもを優先したいので今の選択に後悔はしていませんが。
- ・出産する事を選択し、キャリアを捨てた。
- ・家事育児
- ・家事、育児の面について
- ・育児は、母親中心なところでは。
- ・負担のかかることはすべて男性です。女性は楽して、口ばかりでは？責任感がない。
- ・育児不平等。

【身体的違い】

- ・生理用品やブラジャーなどの消耗品を買う時。身につけずにはいられない物、むしろ身につけなくてはいけない物にお金がかかるところ。女は不利で男に比べると不平等だと強く感じる。
- ・給料の差、ホルモンバランスの変化による日常生活を送る上で制限がかかった時、夜間や旅行先で、安全に、気軽に1人で出歩けない時
- ・妊娠出産で自分の仕事のキャリアを断たれる
- ・生理があり、出産は女性だけということ。子育ては女性が主導となる考えになりやすい根本だと思う。
- ・痛みに耐えることが多い

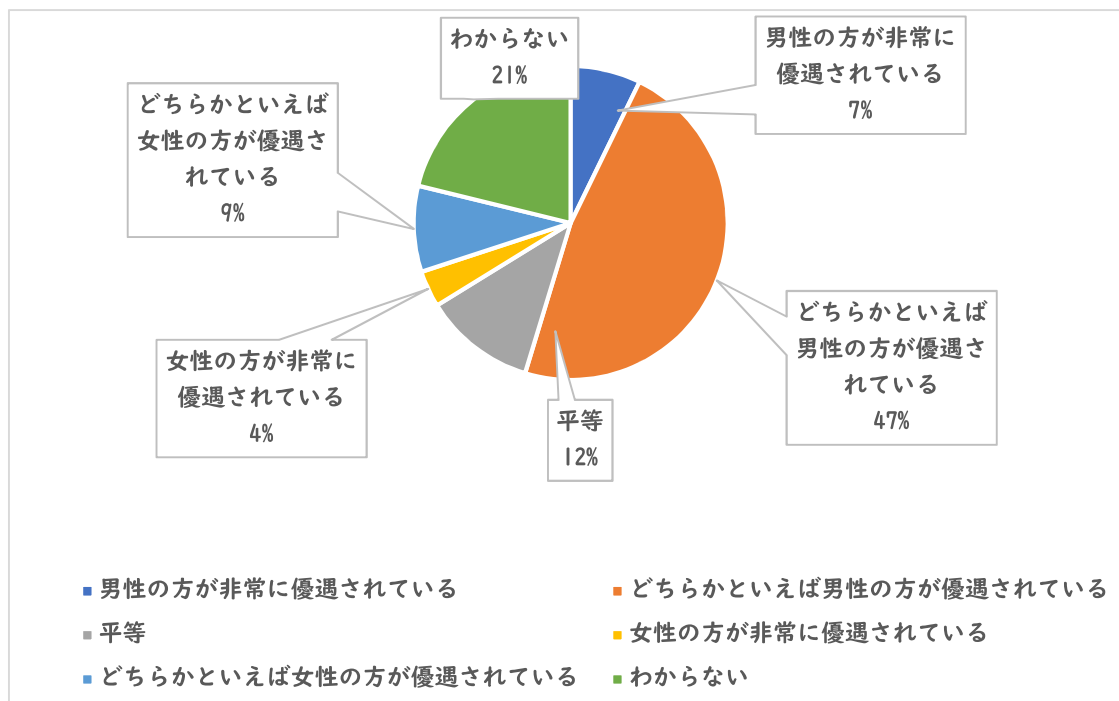
【周りの人の意識・風習】

- ・問題が起きた時に対応を求めた際、男性から見下された態度を取られた時(自分ではなく年上男性に代わってもらったところ、相手の態度があからさまに変わった)
- ・自分を殺してやりたいことの大半をあきらめて、家族のために、母や妻や嫁としての仕事や、収入を得るためにさらに外で働くことを毎日求められ、どんなに仕事をして、当たり前であり、家庭で何の評価も得られないことが辛い。
- ・結婚のときに、夫側の苗字を名乗らなければ結婚を承諾してもらえなかった。二人の意志で決めるものではあるが、保守的な砺波地方において、家と家という意識は強い。
- ・結婚したことで、苗字を変えなければならない。夫の実家に住むことになり、二世帯では

あるが、気が休まらない

・夫に家事を任せるとき。(周りの目が気になる)

③男女の地位の平等感について、どのように考えますか



	人	%
男性の方が非常に優遇されている	27	7%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	177	47%
平等	43	12%
女性の方が非常に優遇されている	14	4%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	33	9%
わかない	79	21%
計	373	100%